

..... 編集後記 .....

◆ 「垣根の垣根の曲がり角…」の出だしで知られる「焚き火の歌」。街角での焚き火の風景はめったに見られなくなりましたが、歌の方はこの季節の郷愁として今も親しまれています。この歌は昭和16年12月9日放送のNHK「幼児の時間」で世に出ました。ところが、時あたかも真珠湾攻撃の翌日。早速に軍部からのお達し(火や煙は敵国の標的になる)により、即座にお蔵入りになってしまったのだそうです。

焚き火の歌は戦後の昭和24年、小学校の教科書に復活を果たしますが、今度は消防庁からクレームがつかました。子供たちだけでの焚き火を助長するおそれがあるのは好ましくない、というのがその理由です。スッタモンダの末、教科書の挿画に大人とバケツを加えることで、ようやく日の目を見ることができたというウソのような話が残っています。季節感の豊かな名曲にも、受難の歴史があったのです。

焚き火の不始末は確かに火災につながりますし、密集した住宅地では煙さえも近所迷惑なことでしょう。けれども、焚き火を通して火の取り扱いを覚えた編集者らの世代には、やはり懐かしい思い出です。首都圏の火災原因のトップは放火だそうです。焚き火の風習が廃れたことが、連続放火魔などを産む遠因になっていなければいいのですが…。

◆ さて、本号の表紙はリオ・デ・ジャネイロの代表的観光地、コパカバーナ海岸にそびえるボン・デ・アスカルの奇観です。あまりにも有名な景観ですが、この不思議な風景はどうしてできたのかをご存知でしょうか？ 答えは巻頭の石原舜三さんの解説に記

されています。

◆ 雲仙普賢岳の噴火で一躍一般化した「火砕流」と同じように、「活断層」もまた阪神淡路大震災で広く一般に知れ渡るところとなりました。大震災以降、活断層の調査は各地で活発に進められていますが、活断層は陸上だけにあるわけではありません。海底の活断層はどのようにして調査するのでしょうか。浅海域にある活断層調査の方法と、実際の調査例を活断層研究センターが紹介してくれました。口絵と併せてお読みください。

◆ 前号に引き続き、茂木 陸さんによる「ブータンとその周辺の地質」の後半をお届けいたします。本文中の第5図は前回と重複掲載になりますが、今回分の内容とも密接に関連しますので、著者の了解のもとに、あえて挿入することにしました。文末の文献リストも同様です。茂木さんの克明な記載により、未知の国ブータンの地質が身近になりました。貴重なご投稿に深謝いたします。

◆ 新たに産業技術総合研究所が発足した2001年も間もなく暮れようとしています。アメリカでの同時テロや長引く国内経済の不振など、21世紀の幕開けは決して明るいものではありませんでした。産総研正門の両脇に建ったAISTのモニュメントと地質標本館の石柱(その経緯などは追って本誌上で詳しく紹介する予定です)を厄払の門松として、来たるべき年への希望を膨らませたいものです。

(遠藤祐二)

地質ニュース編集委員会

委員長：遠藤祐二  
副委員長：谷田部信郎  
委員：磯部一洋・七山 太・中島 隆・  
安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館  
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1  
Tel. 0298-61-3754  
Fax. 0298-61-3569

地質ニュース	第568号	2001年	12月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) ㊦実費		
2001年12月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 ㊦102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951 (代表)		
	Fax. (03) 3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

© 2001 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ